

# 戰時保育の本義と實際

昭和十八年八月戰時保育講習會講義筆記

倉 橋 惣 三

## 目 次

- 一 戰時保育の意義
- 二 戰時保育の重要性
- 三 戰時保育の問題
- （一）保育の目的文面に就て
- （二）保育の方法方面に就て
- （三）保育の内容方面に就て
- 四 戰爭それ自身の取入れ
- 五 戰時下生活の取入れ

## 第二日——八月二日（下）

### （二）保育方法の嚴省

保育目的についてはこれで打切ることにしましてつゞいて保育方法についてみる事にします。（一）保育目的は即保育方法を規定するのでありますが、便宜上、保育方法を保育方法としてもう一つ考へてみようと思ひます。前に述べ

ました通り戰時保育は普斷してゐない事を初めてやり出すことではありません。今迄ある事をさう意味づけ、重點を擇ぶかであります。そこで戰時保育といへば目的として實に嚴しい、先程から述べて來た言葉も保育論として強すぎるのではないかといふ感じもするのでありますが。今迄はのび／＼子供を自由に伸ばすといふ點を重んじたのでありましたが、今日は、協和する、しかも挺身出來る人間をつくる等みるからに嚴しいのであります。

#### （い）遊戲につき

こゝで嚴しい保育論をきゝ保育のこゝは頼んだぞといはれてやつつけます。皆さんが答へるその心は幼兒達の遊びが一致しないかもしれせん。するに平時のやうに遊ばせない事になるかもしれせん。しかし幼稚園の根本はどこまでも遊戲であります。しかしこの通念を目的がくひ違つてくるのであります。しかし保育の方法は、さんな目

的を持たうこも子供の生活をはなれて方法はないのであります。現實の世界はさうであらうこもやはり幼児には幼児の世界、心理的な世界があるのであります。時局は今さうであるか!! ファー(笑)そこで幼児のところに來て「何を遊んでばかりゐるんだ(笑)これから教練をする」(笑)こんなこは出來ないのであります、遊びこそ嚴しい現實の中にも幼児の生活の基礎になるのであります。十分に遊ばせてやりませう。

しかしその遊びもまた戰時保育の立場から嚴しく省る必要があります。遊びは幼児にまつてはその最も嚴肅な生活なる事いふまでもありません。たゞその嚴肅がにこ／＼ミ晴やかな、和やかな嚴肅であるのです。ダリアがきれいに咲いてゐるのをみて、この戰下に何故無く咲かないか(笑)なぎさいふ人はありません。さうするミダリアはいふでせう。だからなほ一生懸命咲いたのです。そしてなほ赤くしたのですこいふであります。幼児がにこやかに遊んでゐるのは嚴肅なる生活なのであります。遊びを尊重するのは幼児の嚴肅なる生活を尊重するからであります。

これを基礎にしてゐるからであります。ミころが、あの嚴肅に、眞面目に、眞剣に遊ぶべき子供が、遊ぶミ眞剣になる子供が、さうかするミさうでない事があるのであります。私は子供が先生のお話をきいてゐる時、眞剣にならない

くても嫌なのだミは思ひませんが、——皆さんには違ひます。私の話を眞剣にきかないミ嫌な人だミ思ひます(笑)——そして此方が幼児の眞剣性を産み出させなかつた事を反省するのでありますが——皆さんには義理しらず、おつきあひの出來ない人ミ思ひます(笑)。又子供に手技をやらせやうミしても一生懸命にならないでもそう責めたくはありません。けれども遊んでゐる時、一生懸命でなければその子は本質的に根本的に嫌な子であります。ミころがさういふ子があるのであります。ふざけて遊んでゐる子がある。角力に負けて「チャーニ、根が遊びである」(笑)こんなのはなぐりたくなります。しかしそんな子は滅多にない。あれは實に害はれた子供であります。保育方法の問題ミして遊びを考へてゐるのでありますが、先生が子供の遊びについてさう考へてゐるか、こゝに多々問題があるのであります。「角力に負けたからさういつてそんなに夢中になつて何です。根がたわむれにあらすや(笑)」そんな先生の指導をうけるミ子供がだん／＼さうなつて來ます。先生が如何なる遊戲觀を以て子供のそばにゐるか問題であります。子供が角力に負けるミ先生の方が口惜しがらるものもあります。子供の方が慰めてゐる(笑)但し特定の子供だけに口惜がるのはひいきであります(笑)母はこれをさう扱ふか、我が子が角力で負けた時の取扱ひ、その一つは怒ります。そ

の怒り方は子供の嚴肅性に對して怒るのでなく、負けた事に對して怒るのであります。負けたといつても長屋の子に負けたといふ面目問題ではないのであります。あの眞劍性が續いてゐるのであります。「覺えてゐる」は少し勝敗を後日に豫約するやうで未練性があり嫌でありますが、そこでは一應フツーならなければなりません。先生は上手な遊戲指導者でありませうが、にこやかに「戯むれ遊ぶ子らよ」なささまるめこむでありませうが（笑）それでは駄目であります。私は前からいつてゐるこゝでありますが朝の挨拶を「ミナサンオハヨウゴザイマス」なささ唱歌でする等は大嫌ひであります。況や樂隊にあはせて角力をするなささといふのは笑遊ばせるこゝだけを考へ、遊戲の眞劍性を考へないのではいけません。成る程、にこやかにしてゐる、遊んでゐるが、そこにムツとする程の眞劍性があるのが幼稚園であります。角力ばかりではありません。人形を抱いてゐる眞劍性があります。ギョツと抱きしめるのが戰時保育の人形の抱き方なりなささはいひません。

さなきだに怖い顔を一層怖くするのが眞劍なのではありません。私はまゝでこのお相手が出来ません。子供から草の御馳走を貰ふ時、草なんかいやだとは申しませんが、さうも眞劍でない。おいしさうでせう、さうみえるでせう等といふ、ちやちな食べ方をする（笑）遊びの眞劍性を冗談で

崩してゐる。しかも我々がその根本になつてゐるこゝが問題なのであります。大人の世界は嚴肅だから、幼稚園にいつて氣樂に遊んでこよう（笑）さといふのでは見當が違ひます。幼兒的眞劍さの中にあるて、そこに愉快を感じるのが保育であります。若い先生は自分の眞劍になつて「子供が私を馬鹿にするわあーん」（笑）又老練な先生は「幼兒なんか何でもありませんよ、小指の先でチョイ〜」（笑）子供が「先生」さよんでも返事だけで妻はアツさといふまに見えない。急行列車的返事（笑）をしてゐる。つまり幼兒をおもちやに考へてゐるのであります。教育に於て遊戲を尊重する事にいろいろの立場があります。遊戲のをかしさ、やはらかさ、たはむれさだけを教育へ應用してこようとした學派もあるが私は遊戲の眞劍性をこゝるのであります。

#### （ろ）躑に つき

次によく遊ばせると共に躑をするこゝであります。躑をはなれた遊ばせ方はありません。躑をはなれた方法はないのであります。保育は躑だから躑は保育方法の全面にわたるのであります。戰爭下であるから躑なささいつてゐられないさはいはれないのであります。たゞ、遊びも同様、躑についても考へたい事は、躑がしばしば以て不眞面目、生動的、實質性から遊離してくるこゝがあるのであります。例へば躑の一さしての行儀作法、かゝる事はある意味では

人間生活の裝飾の如く考へられてゐます。行儀作法なご暇な時する事である。行儀のいゝ人とは生活から遊離した行動藝術をこゝろのであります。行儀作法がミゝのつてゐるのは美しいこゝろには違ひないが、行儀作法は生活に即してゐる時に本當の意義があり美しいものであります。行儀作法の出来ない時に行儀作法が問題になるのであり、生活が亂雑になるまきに行儀作法が要るのであります。躰まいふ茶ノ湯の作法を思ひ出します。何故に戰國の士が、茶ノ湯を大いにしたかまいふ事でありませう。戰を生命とする士が何故にあれをしたか、それには茶を一杯やつて休息するまいふ事もあつたでありませうが、お茶ミは、慌しい行動の中に茶をひつくりかへさない事でありませう。落付いてゐる時ならさうしてもよいのであります。茶の作法ミしての意義は、茶を立てゝゐる時に空襲になつてもひつくりかへさない事でありませう。空襲になつたら茶席が騒然、湯はこぼす、釜へ足をつゝこむ(笑)これではいけない。そんなに騒ぐ時でも茶碗を両手でかう持つてゐるからこぼさない、(笑)。踊りの稽古は何の爲にするかまいへば慌たしい時にステンコロリンしない爲であります(笑)。行儀作法ミいつた生活藝術に屬する事をすぐ生活そのものにもつてゆくのであります。行儀作法を行儀作法の爲にするのは本當の行儀作法ではありません。かけくらの中に行儀があり、角

力の中に作法があり、喧嘩の中にも作法があります。こゝに行儀作法の嚴肅性があるのであります。生活訓練ミは生活性をもつた訓練であります。それは生活をしてゐるだけであつて、生活目的をはなれて、訓練の爲の訓練を考へないのであります。私は戰の映畫を好んで観ますが、これから死ににゆかうミする人がチャンミ敬禮をする。死ぬまいふ眞剣さになるミこれがちやんミゆくのであります。上官の答禮も眞剣であります。戰爭位禮儀作法を正しくするものはあります。遊戲を嚴肅性において重んじ、躰を生活の眞實性において重んじるのであります。

#### (は) 保育内容についで

問題をかへて保育方法の中で、わかりやすくいへば保育項目の中に入るこゝでありますが、——保育項目は保育内容の中の類別であります、この言ひ方を致します。この中に於てはお話も、手技も大事なことあります。戰中であるからミいつて戰爭ごつこばかりしてゐるのではありませんが、力點ミしてのおきごころはやはり戰時下であるまいふ事であります。お話において戰の話ばかりせよといふのではありません。直接に戰爭話をして戰爭精神を養ふのではありませんが、この話にしてもその中で、庶幾はくは、國の良さに對する憧憬ミいひますか日本はよい國だなあ、ミいふ感じの方向へ向ひたいのであります。ごここに日本

的なものをもたせたいのであります。國民童話は材料のみでなく、扱ひ方においてこの方向に向ひたいのであります。桃太郎の話にしても、犬、猿、雉が洋服をきてゐるミいへば子供達は面白がつてよろこぶであリませうが、あの三匹がきてゐる昔からの日本の衣装になか／＼味があるのであります。それ／＼日本的な服裝をさせてゐる。こんなことはぢぢらだつていゝ。話としては末梢的なことではありますが、そこに我々が子供の時武者繪をみて、日本の精神の何かを得たやうな氣がした、そういつたものがあの話の中に出て來るのであります。あの時は桃の旗印であるが、今なら確實に日の丸であります。桃の旗印はそれでよいが、子供は日の丸を立てゝ行きます。すべてその問題にふれてくる事が出來ると思ひます。昔からつゞいてゐる日本のなもの、今の日本的な觀方まであります。話そのものをかへよといふのではありませんが、非日本的なものへもつてゆくゆき方は避けなければなりません。遊戲にしてもいろ／＼あります、私の一つ覺えに「花ヲバツンデオミヤゲニシマセウ」いふのがあります。つんだ花を誰にあげるかはきまらない。お父さんに、お母さんに、姉さんにあげるものでよいのであります。今日は病院へ、傷痍の兵隊さんへミそこへもつてゆけるのであります。唱歌をつくりかへるのではありませんが、先生の氣持も子供の氣持も花を見れ

ばさうなるであらうから、そこへもつてゆくのではありません。幼稚園の私の部屋に可愛いゝ女の子の銅像があります。これは立派な藝術品であります、すでに獻納の手續をミり、まだお召しにあづからないので置いてあるのではありません。私の部屋に來る子供は皆「これ獻納するんでせう」いひます。銅器を見れば子供は獻納と思ふのであります。この銅像はむしろ情操のためにあるのであります、今日は獻納といふ事があれによつて子供の心に入るのであります。今日我々の持つ時局下の氣持へしかるべく結びついてゆく事が出來るのではないかと思ふのであります。戰時保育の一大特色として何ミなく、平常ミは變つた事をいふ考へ方が出るのであります。私も私は長く續いた保育方法は變へられないと思ふのであります。方法を變へずに解釋をかへるのであります。戰時下らしくかういふ保育をしてゐるミ他に誇るやうなみせかけ保育は主張しません。幼稚園生活に即する限りやはり遊戲であり、躑躅であります。保育項目ミしては同じであります、解釋が違つて來るのであります。それが戰時保育の特色であります。以上、保育目的を戰時保育ミして省みたお話であります。